

「みどり香るまちづくり」企画コンテスト 15周年記念「みどり香るまち」大賞について

環境省水・大気環境局大気生活環境室
令和2年3月

1. 大賞の目的

住みよいかおり環境を創出しようとする地域の取組を支援するため、「かおりの樹木・草花」を用いた、「みどり香るまちづくり」の優れた企画を表彰することを目的に「みどり香るまちづくり」企画コンテストを平成18年度から毎年実施している。本コンテストは企画段階の内容を評価する特性上、受賞後の継続状況については評価の対象外となっている。このため、平成27年度に10周年を記念し、過年度受賞団体の中から特に積極的に継続し発展されている優良な取組を「みどり香るまち」大賞として選定を行い、これを表彰することで、良好なかおり環境が長期的に維持され、住みよいかおり環境のまちづくりに繋がっている。

今回、令和2年度の15周年を記念し、前回と同様に過年度受賞団体から優良な企画を表彰することによって、企画の継続に向けた過年度受賞団体の取組が全国各地に広がることを目的としている。

2. 対象者

「みどり香るまちづくり」企画コンテスト受賞団体について、平成23年度から平成30年度の受賞団体（66企画）を対象に、受賞後の状況に関するアンケート調査を実施し、回答いただいた受賞団体（58企画）のうち、写真等を添付いただいた41企画を審査対象とする。

3. 表彰

「みどり香るまち」大賞【1点】

表彰状、副賞として企画に応じたかおりの樹木・宿根草等草花を提供予定

4. 選考方法

選考はアンケート調査による回答結果及び写真等データをもって、かおり環境部会委員及び事務局において書面審査し、2企画程度に絞り込みを行う。その後、当該企画地を対象に現地視察を実施し、かおり環境部会による協議審査を経て選定する。

<審査資料>

- ・「みどり香るまちづくり」企画コンテスト受賞後の状況に関するアンケート調査結果
- ・取り組みの様子、季節ごとの様子を撮影した写真、現在の状況、広報宣伝物（パンフレット等）等の資料（写真データについては、過去2年間に撮影されたものが対象）
- ・報道された際の記事

5. 選考について

アンケート内容・添付資料から、以下の「評価基準」に基づき選考委員が総合的に評価。

<評価基準>

以下の項目ごとに評価します。

- ①環境性：住みよいかおり環境の創出に大きく貢献できるか、周辺の自然環境・生活環境・景観等に配慮した植栽がなされると見込まれるか。
- ②持続性：長期的に、適正な維持管理・発展がなされると見込まれるか。
- ③独創性：植物の選び方や配置に個性が見られるか、まちづくりに関する新しいアイデアがあるか。
- ④公共性：近隣住民が楽しみながら植栽等に取り組みされると見込まれるか、植樹場所が広く公開され、多くの人によいかおり環境が提供されると見込まれるか。

※なお、植栽から問もない企画についても同等に審査を行うため、上記評価基準の各ポイントについて「その可能性が現在の取組から見込めるか」という観点からも審査を行います。

<配点基準>

上記①～④について、「-3・-1・1・3・5点」の5段階評価（20点満点）で評価を行い、合計点をもとに審査を行います。対象者・団体が選考委員の利害関係者の場合、その委員はその取組の審査を棄権します。

配点	基準
A（5点）	特に優れている
B（3点）	優れている
C（1点）	普通
D（-1点）	やや劣る
E（-3点）	劣る

<選考委員>

令和2年4月現在

氏名	所属
加藤 正男	公益社団法人日本アロマ環境協会 専務理事
小峯 裕己	公益社団法人におい・かおり環境協会 会長
佐久 定規	一般社団法人日本植木協会 副会長
近藤 三雄	東京農業大学 名誉教授
佐藤 友美子	追手門学院大学地域創造学部 教授
志々目 友博	中央大学理工学部都市環境学科 教授 中央大学大学院理工学研究科 教授
畑 正高	株式会社松栄堂 代表取締役社長
藤田 八暉	久留米大学 名誉教授

6. スケジュール（予定）

令和2年4月13日（月）

令和2年4月

令和2年4月末

令和2年5月～6月

令和2年11月

令和3年1月

令和3年2月

取組評価表を事務局へ提出

審査結果取りまとめ

審査結果を委員へ周知、現地視察の日程調整

現地視察（予定）

第2回かおり環境部会にて「みどり香るまち」大賞の選定

「みどり香るまち」大賞の決定（報道発表）

「みどり香るまち」大賞の表彰